

全国ネット通信

2018 秋号 Vol.32
平成30年10月発行

今夏の異常な天候について ～各地で降水量や最高気温の記録更新～

気象庁 地球環境・海洋部気候情報課 調査官 田中 昌太郎



今年(2018年)の夏(6～8月)は、異常と言えるような天候が現れた。7月上旬には「平成30年7月豪雨」が発生し、西日本から東海地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、広島県や岡山県、愛媛県など各地で甚大な被害が発生した。6月28日～7月8日の総雨量は四国地方で1800ミリ、東海地方で1200ミリを超えるところがあるなど、平年の7月の降水量の2～4倍となるところがあった。九州北部～東海地方の多くの地点で24・48・72時間降水量が観測史上1位となった。この豪雨による死者・行方不明者は230名、全壊家屋6,296棟にもものぼった。(9月5日時点の情報)

一転して、7月中旬以降は記録的な高温となり、熱中症などの健康被害や農作物への悪影響が生じた。東日本の7月の平均気温は平年と比べて+2.8℃高く、1946年の統計開始以降で最も高温となった。7月23日には埼玉県熊谷市で歴代全国1位となる41.1℃が観測されるなど、この夏は全国の観測点927地点のうち202地点で最高気温の記録を更新した。

これらの豪雨や高温はなぜ生じたのであろうか。気象庁異常気象分析検討会の検討結果の概要を紹介する。

まず、「平成30年7月豪雨」は、西日本付近に停滞した梅雨前線に向けて、極めて多量の水蒸気量が流れ込み続けたことによって発生した。7月5日～7日に西日本に集中した水蒸気量は3日間の値としては1958年以降で最も多かった。これは、東シナ海からの水蒸気を多く含む気流と、日本の南東海上で発達した太平洋高気圧の縁に沿って南から流入する湿った気流が西日本付近で持続的に合流したためである。梅雨前線は、北側の冷たい空気と南側の暖かい空気の境目に形成されるが、この時期、非常に発達したオホーツク海高気圧から下層の冷たい空気が日本海に南下したことから、西日本付近の梅雨前線が強化され、上昇流が起り易い状況となった。更に、朝鮮半島付近の上空には深い気圧の谷があり、これが西日本への水蒸気の流入や上昇流の励起を強めた。

また、大雨の背景要因としては地球温暖化の影響が考えられる。日本における極端な降水の強度と頻度は増してきている。気温が1℃上昇すると大気中の水蒸気量が7%程度増加することが知られており、地球温暖化に伴う水蒸気量の増加が極端な降水の強度と頻度の増加に関連しているとみられる。

次に、7月中旬以降の記録的な高温は、太平洋高気圧と上層のチベット高気圧が日本付近に張り出し続けたことによってもたらされた。フィリピン付近の積雲対流活動が活発になるとフィリピン付近で上昇した空気が日本付近で下降し、太平洋高気圧を強めることが知られており、記録的な高温となった時期に、これらの特徴が顕著に現れた。

日本の上空にはジェット気流(西から東に吹く偏西風の強いところ)が流れているが、時に何らかの要因によって南北に大きく蛇行した状態が続くことがある。この時期、日本付近のジェット気流は大きく北に蛇行した状態が続き、これが一因となってチベット高気圧の日本への張り出しが強まった。これらの2つの高気圧の強化に加えて、北半球中緯度の対流圏の気温が全体的に著しく高かったことや、地球温暖化に伴って長期的に気温が上昇していることも、記録的な高温を底上げしたと考えられる。

将来、地球温暖化が更に進行すると、大雨や高温の強度や頻度は更に増すと予測されているが、それらの増加の程度は将来の温室効果ガスの排出量によって大きく異なることから、温室効果ガスの排出削減を一層進めることが重要である。また、地球温暖化が進行する中、この夏のように、これまでに経験したことのない豪雨や高温が日本のどの地域でも発生しうることに留意し、それらによる被害を回避・軽減するための適応策を一層進めることも重要である。気象庁としては、こういった地球温暖化対策の推進に貢献できるよう、情報の提供・改善に努めていきたい。

ストップ温暖化センターとちぎの活動を視察しました！

全国ネットでは、地域センターが実施している事業で、他への展開や効果が期待できる事業について、実施状況の確認と情報収集を目的として視察を行っています。8月3日（金）に、ストップ温暖化センターとちぎ（栃木県地球温暖化防止活動推進センター）が宇都宮市立南図書館で開催した「ストップ温暖化とちぎ企画展」を視察しましたので、報告いたします。

会場は、夏休みということもあって、親子連れや中高生など若い人が多く訪れていました。駅から近いことと自習室が充実していることが、人気の理由だそうです。多くの市民が訪れる図書館ならではの取組として、地球温暖化に関する本が栃木県センターや宇都宮市役所の活動をPRするパンフレットと共に受け付け近くにまとめて展示されており、来場者が目立つように工夫されていました。また、幅広い世代の方が温暖化対策に関心を持ってもらうために、とちの環県民会議のメンバーがソーラークッキングの実演をされたり、推進員さんがエコ縁日として、工作や射的、輪投げなど、子どもが楽しんで学べる活動をされていました。全国ネットが開発したプログラム「身のまわりの環境マークを集めよう！」の「かんきょうマークずかん」についても、子どもたちが興味を持つように推進員さんが説明されていました。

メイン会場の展示では、来場者の目を引いていた物を二つ発見しました。ひとつは、「思わず押しちゃうスイッチ」。スイッチをOFFにすると、ギョロツとした目が隠れてスマイルになるスイッチや、ハサミが隠れて赤い糸が繋がるスイッチです。確かに、スイッチをOFFにしたいくなりました。もうひとつは、そのスイッチの横にある物体。これは、「思わず押しちゃうスイッチ」に対する参加者のリアクションを記録するためのカメラで、記録された映像を基に参加者の「感情サイン」を定量化することが試みられています。「感情サイン」は、「前かがみ」「うなずき」といったプラス行動や、「後ろに反る」「腕組み」といったマイナス行動のことを指します。一般的に参加者の気持ちを調べる方法は、アンケート調査が主ですが、この「感情サイン」を定量化する方法は、調査票の記入が不要になるため、参加者の負担軽減に繋がることが期待されます。

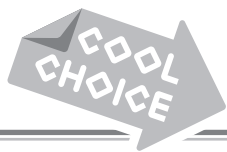
今回は、地域センターが普及啓発の現場で実施されている様々な工夫を見られる良い機会を与えていただきました。全国ネットでは、全国の地域センターと連携して、PDCAサイクルを活用した事業の展開を進めるとともに、COOL CHOICE賛同数及び啓発の人数や、みなしCO2排出削減量などの指標で、活動による効果の定量的評価を行っています。栃木県センターの試みは、今後の事業計画でより効果的に行動変容を促すために活用が期待できると考えます。

引き続き、地域の活動実態は勿論のこと、事業評価の手法等についても情報収集と検討を行い、より効果的な地域センター事業に向けた支援を実施していきたいと考えています。



インターネットカメラ
(1秒間に3コマ撮影)

壁面展示の「思わず押しちゃうスイッチ」に対する
来場者のリアクションを記録しています



あなたの「COOL CHOICE」を応援！

「COOL CHOICEガイドブック（仮称）」作成中！

2015年からスタートした、環境省が推進する「COOL CHOICE」国民運動は、現在5,284,073人の方が賛同※されています。

「COOL CHOICE」とは、温暖化対策に資する、また快適な暮らしにもつながるあらゆる「賢い選択」をしていこうというのですが、具体的に何をすればいいの？という方も少なくないのではないのでしょうか。

そこで、全国ネット（全国センター）では、環境省のCOOL CHOICEキャンペーン（右図）の紹介を中心に、家庭での「COOL CHOICE」実践のための「COOL CHOICEガイドブック（仮称）」を作成しています。このガイドブックでは、気候変動問題に関する基本的な情報から、「COOL CHOICEを実践しないと実はこんなに損をしている!」「こんなCOOL CHOICEを実践すると、生活が豊かになる!」といった内容で構成する予定です。また、「COOL CHOICE」の普及啓発をされている方にも、参考資料としてご活用いただけます。

12月の温暖化防止月間中に各地で行われるイベント等でご活用いただけるように準備をしています。完成次第、全国センターホームページ等でお知らせいたしますので、今しばらくお待ちください。

※環境省COOL CHOICEホームページより引用 <https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/>（平成30年9月28日現在）



ブロック合同推進員研修会に参加しました

今年度も各地で、推進員および地域センターの活動の情報共有やスキルアップ、活性化を目的に、ブロック合同推進員研修会が開催されています。全国ネットスタッフが2ブロックの研修会に参加してきましたので、以下に報告します。

中国・四国ブロック(9月6日～7日)

中国・四国ブロック合同推進員研修会のプログラム初日の一部を見学しました。

今年度は、「維新ぜよ！！中国・四国地域の温暖化防止活動」をテーマとして、主に委嘱歴の浅い推進員を対象に開催されましたが、特に印象的だったのが、3名のベテラン推進員からの事例報告でした。

3名とも、より多くの方々に関心を持ってもらう為、直接的に温暖化問題を伝えるのではなく、ESCO、フードバンク、木育・紙漉きといった、自身の専門分野を糸口とした啓発活動を実施しているとのこと。また、そのような手法を取ることで、自らも啓発活動を楽しむことができるため、継続するモチベーションにもなっているとのことでした。

事例報告を受けたワークショップは、自身の強みを活かした普及啓発の手法を探り、温暖化防止活動の新たな一歩を踏み出すため、第三者の意見を踏まえたブラッシュアップが図られていました。

全国ネット(全国センター)としても、今後の事業推進の示唆を得る貴重な機会をいただくことができました。中国・四国ブロックの皆様、ありがとうございました。



関東ブロック(9月26日～27日)

関東ブロックの12センターより、推進員32名、地域センター職員25名の合計57名が参加されました。今回の研修会は、静岡県富士宮市の、富士六湖!?とも呼ばれている「田貫湖」の環境省ふれあい自然塾をお借りして開催しました。

1日目は、環境パートナーシップ会議副代表理事の星野智子さん、ライトダウンやまなし事務局長の跡部浩一さんを交えて、SDGsとCOOL CHOICEを考える全体会のほか、推進員同士の活動事例紹介とふれあい自然塾見学、夜には星つむぎの村 高橋真理子さんをお迎えして、星を通したCOOL CHOICEプログラムをプラネタリウムで体験しました。

2日目は、ホールアース自然学校から学ぶ「楽しい学びの場の作り方」および、全国ネットスタッフによる「学童保育向けプログラムの体験とプログラムを使った推進員・地域センターによる事例発表」の2つのグループに分かれて、実践的なワークショップを行いました。

当日はあいにくの天気でしたので、富士の自然、星空を満喫することはできませんでしたが、事例発表や紹介、プログラム体験や意見交換を通して参加者同士の交流を図ることができました。



プラネタリウム体験



ワークショップで学び合い

「低炭素杯2019」開催!! 観に来なきゃ損する!

「低炭素杯」は多種多様な団体(学校・企業・自治体・NPO等)が、日々取り組まれている地球温暖化防止につながる活動を募集し、最終選考で大会の舞台から自身の活動を発表することによって、取組のノウハウや情報を互いに共有し、さらなる活動に向けて連携や意欲を創出する「場」となることを目指して、平成22年度から開催しています。

9回目を迎える「低炭素杯2019」では、全国から100団体を超えるエントリーがありました!この中から、書類審査を通過し、当日ステージで発表することができるファイナリスト28団体が、12月上旬迄に決定します。

また今回、当日のプログラムは目白押しで、最近テレビ等のメディアでもご活躍の生き物の先生!五箇公一さん(国立環境研究所生態リスク評価・対策研究室 室長)をお呼びして、基調講演を行います!

さらに会場は、「第11回川崎国際環境技術展」とコラボ開催となっていますので、1日いても飽きさせません。ぜひとも、2019年2月8日(金)「カルッツかわさき」へお越しください!



低炭素杯2019
プログラム(予定)

開催日: 2019年2月8日(金)

会場: カルッツかわさき
(神奈川県川崎市川崎区富士見1-1-4)

- 09:30 ~ 開場/受付開始
- 10:00 ~ 開会/オープニング
- 10:12 ~
- 13:00 ファイナリストプレゼン発表
- 13:30 ~
- 15:00 基調講演: 五箇公一先生
- 15:20 ~
- 16:30 表彰式/閉会



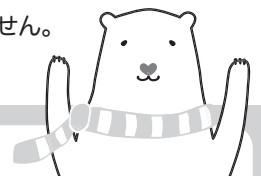
基調講演 13:30~15:00 (予定)

教えて五箇先生!
「地球温暖化による生物リスク」



最近メディアでよくお見かけする五箇先生に、地球温暖化による生き物の変化や、私たちの暮らしへの影響などについて、わかりやすくお話しいただきます。

直接、五箇先生に質問する時間も用意しております。これは観なきゃ損、参加しなきゃ損です!みなさまのご参加をお待ちしております。



「環境省こども霞が関見学デー」でうちエコ診断を紹介しました！

環境省こども霞が関見学デーが、8月1日・2日の2日間、中央合同庁舎5号館にて開催されました。全国ネットは、各家庭のライフスタイルに応じた省CO2対策を提案する「うちエコ診断」を多くのご家庭に知っていただくことを目的に、ブース出展を行いました。

当日は、大変多くの子供たちと保護者の方々にブースを訪れていただきました。

本年度は、「うちエコ診断」に加えて子供たちを対象とした「うちエコキッズ」の展示・体験も行ったため、子供の参加が増えました。

「うちエコキッズ」の体験では、自分たちの生活で使っている電化製品などをたくさん使うことによって、ゲームの中のペンギンが住む氷が溶け、悲しい顔をしてペンギンが海に飛び込んでしまう画像を見て、「あーっ、いなくなっちゃう」と声を上げてしまう子供もいました。

その後、ペンギンが住むための氷を戻すにはどうしたらいいのかをいろいろと考えはじめ、「テレビを1時間にしてみる〜」「え〜本当にできる?」、「シャワーを減らそう」「使っていないときはシャワーを止めれば減らせるね」と、保護者の方も子供と一緒に考えていました。

今回の出展によって、子供たちと保護者が地球温暖化についてもう一度認識し、家庭での省CO2対策について話し合うきっかけになれば良いと思います。



お父さんと一緒に



うちエコキッズ大好評



ペンギンさん困ったよー

エコアナウンサー

櫻田彩子のミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「じゅん散歩」レポーターほか、「低炭素杯」の司会など。



「今、いい風が吹いています！」先日、ある企業のCSR担当の方が話してくれました。この方はこれまで持続可能な社会に向けての取り組みへの理解を得るため社内を説得する事が多かったそうですが、今は経営層からSDGs、ESG投資、自社と関わりのある社会問題へのウォッチ等を頻繁に言われるそうです。それで、風向きが変わった！と感じ、NGOとの対話を始められました。

今夏は「災害級の暑さ」。子供の保育園では、暑すぎてプールに入れないと何度も水遊びが中止に。豪雨に地震など自然災害が頻発しています。

経済活動と自然災害と保育園。一見関係のないように見えて、繋がっています。問題を立体的に捉え俯瞰した時、一つの解決策が二つ三つを解決する事がありそうです。安全な未来へ待たなし。地球温暖化防止は、とても可能性のある解決法なのではないでしょうか。



秋の虫取り

編集後記

この度、7月より専務理事を拝命いたしました秋元智子です。私は、環境活動が長く20年以上、特に市民活動として関わってきました。活動を始めた当時は、身近に地球温暖化という言葉が今のように浸透しておらず、遠い将来の問題のようでした。ですが、今や待たなしの喫緊の課題となっています。

特に今夏の暑さは異常でした。私たちの活動への取組も、以前に比べて、啓発方法や市民へのアピールの仕方も変わってきているを実感しています。そのような中で、JCCCAや全国ネットの役割は大変重要であり、期待されていると認識しています。

全国ネットの創設以来、陰ながら応援してきたのですが、縁あってこの度専務理事という役職をいただきました。微力ではございますが、皆さまのご支援やご助力をいただきながら、職務をまっとうしていきたいと思っています。どうかよろしくお願致します。

専務理事 秋元 智子



一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの活動をサポートしてください！
年会費：個人会員1口 5,000円（1口以上）
団体会員1口 20,000円（1口以上）



【編集・発行】

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット (JNCCA)
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3
第一アマイビル4階
TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100
<http://www.zenkoku-net.org/>

